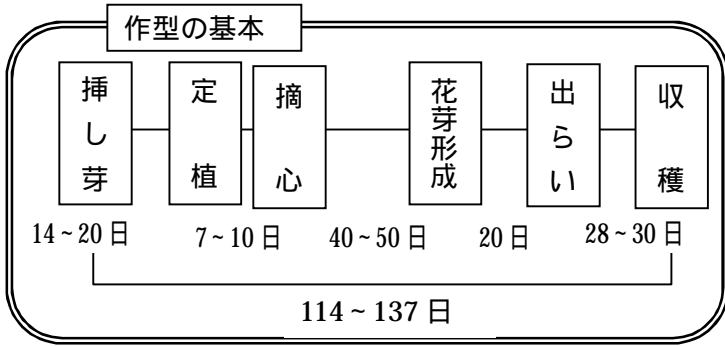


# 小菊栽培暦(旧盆・彼岸出し)

月旬	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	
	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	
促成栽培	保温						ハウス内へ						
	—		x	株廃棄				追肥・土寄せ(親株とする)					
	—				x	—		追肥・土寄せ(親株とする)					



## 1 親株の管理

親株は無加温ハウスで管理する。

10月中に冬至芽を伏せ込む(5×7~10cm)。冬至芽はできるだけ葉が展開していないものを使用する。

移植が遅くなるようなら株ごと移植する(10×10cm)。活着まで保温する。

1月いっぱいには十分に寒さにあてる。

2月に入ったら保温する。しばらくすると芯が伸びてくるので、採穂の1ヶ月前に摘心する。それまでに伸びすぎようなら2~3回摘心を繰り返す。



## 2 挿し芽

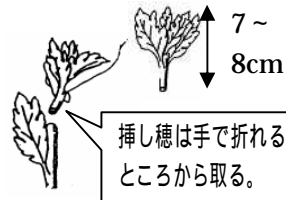
3月25日頃になれば無加温で挿し芽可能。

早朝を避けて採穂する。

下葉を落としてまとめて水上げしておく。

発根剤をつける。

葉が触れ合う程度に、深さ1~2cm差し込む。

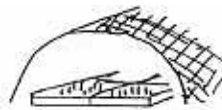


(セルトレイなら128穴)

黒寒冷しゃ等で遮光し、ハウス内で管理する。しおれたら葉水をかける。

早ければ10日程度で発根してくるので(温度によって違う)、しおれ具合を見ながら寒冷しゃをはずす。

根が1~2cm程度伸びたら定植できる。



## 3 定植準備

目標 pH: 5.5~6.5

施肥量: 三要素とも基肥 10~15kg/10a

施肥例(10aあたり)

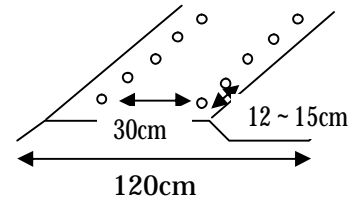
	肥料名	現物量
基肥	堆肥	1~2t
	苦土石灰	100kg
	苦土重焼燐	40kg
	有機&エイト	150kg
追肥	有機&エイト	50~100kg

## 栽植密度

・うね幅 120cm 株間 20cm

条間 30cm 2条植え

・排水不良地ではうね立てする。



## 3 定植後の管理

摘心: 定植7~10日後、活着を確認したら浅く芯を止める。

整枝等: 摘心20日後頃、側枝が10cm程度伸びたら1株3本を残して他の側枝と親株の葉をかき取る。

追肥: 整枝後追肥して土寄せする。



## 4 収穫後の管理

冬至芽の発生を促すため、追肥(N成分で4kg程度)して、土寄せする。

## 5 植調剤の使い方

ジベレリン処理(草丈伸長)

・摘心10日後とその10日後、50ppmを10aあたり100散布する。

・ジベレリン散布後は茎が細くなりやすいので肥培管理に注意し、かけすぎないようにする。エスレル10処理(開花調節)

・摘心後すぐとその2週間後に500倍で10aあたり100散布する。

・1回散布で7日、2回散布で10日程度開花が遅れるが、品種間差が大きい。